

lecture of haborogy

はぼろ学講座

あなたはどれだけ
はぼろのことを知っていますか？

第7回

はぼろ学講座は「羽幌の成り立ち、自然・動植物、生活・文化を総合的に学び、羽幌町を訪れるお客様にまちを紹介出来る人材を育成すること」を目指しています

お問い合わせ

はぼろ学講座のお問い合わせは、
町民課までご連絡ください。

☎ 0164-62-1211(内線105)

✉ choumin@town.haboro.hokkaido.jp



今年度、屏風岩で観測されたオロロン鳥の様子（写真提供：環境省北海道地方環境事務所羽幌自然保護官事務所）

12年ぶりに50羽の オロロン鳥の飛来を確認

10月28日、環境省と羽幌町の共催で、オロロン鳥ウミガラズ羽幌報告会が開催されました。この報告会は第13回はぼろ学講座としても開かれ、週末の夜にもかかわらず50人を超える参加者が熱心にオロロン鳥保護活動の状況に耳を傾けていました。

最初に町民課の北海道海鳥センター担当から、海鳥センターを中心に行っている普及啓発活動の説明があり、続いて環境省の新村自然保護官とアクティングレングジャーの彦坂さんから、オロロン鳥の調査結果が報告されました。

今年度はオロロン鳥の模型の設置場所を工夫したり、音声装置の出力を大きくするなどした結果、50羽の飛来を確認したそうです。

また、2組が卵を抱いたようですが残念ながら繁殖には成功しなかったようです。

羽幌の山の話

第14回はぼろ学講座は、「羽幌の山の話」と題して11月15日



(左) 木材を運搬した森林鉄道の蒸気機関車。昭和16年から昭和38年までの22年間運行されました。
(下) 当時、木材切り出しの運搬は、農家の馬が主力として使われていました。



第14回はぼろ学講座「はぼろの山の話」の講師は、元営林署職員の柴田忠さんにお願ひしました。写真は、馬で引くソリの形を黒板を使って説明しているところです。



(左) 上築に群生する北方の杉。北限の杉と記述されることもありますが、現在では利尻島で確認されており本文中では北方と表現しています。
(上) 大きなものは、樹高20メートルを超え、大人3人で抱えるほどの太さになっているようです。

lecture of haborigy

に中央公民館で開催されました。講師は元営林署職員の柴田忠さんです。

昭和20年代の人力や馬の力を借りての冬山造材の様子や、かわい蒸気機関車で大量の木材を運搬した森林鉄道の話などおもしろいエピソードがたくさん披露されました。

また、上築にある「北方の杉林」の話では、本来温暖系の杉が北方の羽幌町で育成しているのは、学術的に貴重なもので北海道の学術自然保護林にも指定されていることなどが話されました。この杉は大正7年に山形県から移住してきた斉藤浅吉氏により植林されたもので、現在では樹高20メートルを越え、大人3人で抱えるような大木になっている木もあるそうです。

最後に森林浴の効用にもふれて、リフレッシュするための森や林の活用を呼びかけて講義は終了しました。

次回はぼろ学講座は、新年1月24日に「人との接し方、話し方」と題し、横井まさ子さんをお迎えして中央公民館で開催します。どうぞご参加ください。